

【緊急事態宣言解除後の岩場利用のガイドライン】

新型コロナウイルス（COVID-19）の対応が長期化するであろうことを見据え、JFA では公衆衛生と岩場を擁する地域に配慮した緊急事態宣言解除後のクライミングのガイドラインの策定を進めてきました。

政府は5月14日、39県で緊急事態宣言を解除したのに続き、21日には京都・大阪・兵庫の3府県も宣言を解除すると報道されました。

宣言が解除された後は、我慢に我慢を重ねてきたクライマーが、どっと岩場に繰り出す事態も予想されます。緊急事態宣言の解除＝収束ではなく、第2波、第3波が来ることも覚悟しておく必要があります。

クライマーが一気に岩場に集まれば、いわゆる「3密」の密閉（移動時）・密集・密接の状態は避けられないでしょう。中には症状が出てないコロナウイルス感染者がいる可能性もあります。自分自身も感染者かもしれないということを心しておきましょう。

しかし、「このまま岩場に行かないで Stay Home を続ける」というクライマーは少数派だと思います。ではどうすればよいのか？

緊急事態宣言解除後のクライミング形態の参考になるガイドラインをいち早くアメリカのアクセスファンドが公開しています。これは、現時点でも、将来的に同様な状況が発生した場合にも適用が可能なガイドラインとなっていますが、アメリカの状況に則した一般的な内容であるため、これをもとに日本の岩場環境や社会情勢などを鑑みてアレンジしたものを以下に提言したいと思います。

※ 5/21 時点での緊急事態宣言発出中の地域＝北海道・埼玉県・東京都・千葉県・神奈川県

※ アメリカ・アクセスファンドによるガイドラインは、いづか様のブログ [May the friction be with you!] に掲載された意識版を参考にさせていただきました。

- May the friction be with you!

<https://takato77.hatenablog.com/entry/2020/05/01/071227>

- 米国アクセスファンドの COVID-19 対策記事の原典

<https://www.accessfund.org/open-gate-blog/climbing-during-the-coronavirus-pandemic>

◆ Chill out（冷静になれ）

- ・できれば登りに行かない。

→ 当面の間はやはりこれが無難。基礎疾患をお持ちの方は特に注意してください。

- ・クライミングは、適切なソーシャルディスタンスの保持が難しい活動であることを理解する。
 - 1か所に長時間とどまり、狭いトレイルやビレイ場所をシェアし、安全確認時には濃厚接触も避けづらい。
- ・クライミングギアの共有や、水や食べ物のシェアを避ける。
 - ロープ・クイックドロワー・ビレイ器・ビレイグローブ・ボルダリングマット・チョークバッグ・ロングブラシ等は個人で用意する。飲料を同じボトルでのまわし飲みは厳禁。
 - 新型コロナウイルスは、飛沫感染や接触感染（飛沫が付着した物に接触して感染する）が主な感染理由とされているため（※空気感染はしづらいといわれているが、現時点では未解明な部分も多い）。

◆ Minimize everything（すべてを最小化する）

- ・感染拡大のリスクを受ける岩場近接地域へ配慮し、都道府県境を越えた遠征はしない。特に緊急事態宣言発出が継続中の道都県在住のクライマーは厳守。
- ・家の近くに岩場があるなら当面はそこに行く。
- ・混んでいる岩場やピークタイムは避ける。
- ・地域が来訪自粛を要請している岩場へは絶対に行かない。
- ・集団で行かない（自分とパートナーの2人までが基本）。
- ・車の乗り合わせはしない。

◆ Be prepared（準備万端に）

- ・最新の情報を注視し、行政のガイドラインに従う。
- ・特に土地所有者や地元自治会、ローカルクライミングコミュニティの規定や指示には従う。
- ・上記を事前にきちんと調べておく。
- ・最初に選択した岩場が混んでいたら、あきらめて別の岩へ転進する。
- ・定められたスペースをハミ出すような無理な駐車は決してしない。
 - コロナ禍とは関係なく、アクセス問題につながるおそれもあります。
- ・取り付きで密集・密接が容易に予想できるエリア（例：神奈川県の大沢寺、湯河原幕岩・茅ヶ崎ロック、埼玉県の名栗河又、兵庫県の烏帽子・駒形岩など）の利用は避ける。
 - 岩場でクラスターが発生したら、その岩場は立入禁止となり、コロナ完全終息まで登れなくなる可能性があります。

◆ Protect health and safety (健康と安全を守る)

- ・岩場に出かける前に自分自身やパートナーの健康状態をよく確認する。
 - 特に2週間前～直前に家族を含めて体調不良があった場合、念のため出かけることを控える。
- ・ソーシャルディスタンス(2m)をできるだけ保つ。当面はマスク着用が望ましい。
- ・岩場に行く前と後にはきちんと石鹸で手を洗う。また、トライの前後に消毒液スプレーを適宜使用する。持っていない人がいたら貸してあげる。
- ・リード時にはロープやクイックドロウ、カムなどを口でくわえない。
- ・対面や車座になってレストや飲食をしない。
- ・手が洗えない簡易トイレのドアノブなどへの接触には特に注意する。
 - やむを得ず触った場合は手指消毒を行なう。トイレのない岩場に行く場合は必ず携帯トイレを持参する。
- ・救助隊を出動させることのないよう、はしゃぎ過ぎず、限界を越えるようなトライ、アプローチ困難な岩場に行くことなどを控える。
- ・ボルダリングは身体的接触の機会が比較的多いため、より「3密」に配慮した行動をとる。
 - スポットを頼む場合は汗の付着を防ぐために肌の露出を少なくした服装でのぞみ、できるだけ自力で着地できるよう、余裕をもったトライを心がける。

どうか皆さま、クライマー同士や地域とのトラブルのないよう、安全にクライミングを行なうようお願いいたします。

2020年5月21日

NPO 法人 日本フリークライミング協会 (JFA)